

(参考和訳)

2018年7月24日

サンフランシスコ市長
ロンドン・ブリード 様

貴市との姉妹都市関係にかかる貴殿のお考えについて

この度サンフランシスコ市長に就任されましたことを、大阪市民を代表して心からお祝い申し上げます。また今後、貴殿がサンフランシスコ市の発展に向け、ご活躍されますことを祈念いたします。

ご存じのとおり、大阪市と貴市は1957年10月7日に姉妹都市提携を行いました。以降、経済、教育、芸術など様々な分野で交流を重ねてまいりましたが、現在大阪市の、サンフランシスコ市との姉妹都市関係を根本から見直す、すなわち提携関係を解消せざるを得ない状況にあります。

その理由やこの間の貴市とのやりとりの経緯などについて、以下に説明いたします。

歴史研究者の間でも議論が分かれ、日本国政府の見解と異なる慰安婦の数、旧日本軍の関与の度合い、被害の規模など不確かで一方向的な主張をあたかも歴史的事実として記した碑文とともに、慰安婦像及び維持費の寄付をサンフランシスコ市が受ける議案に前市長自らが2017年11月22日に署名され、慰安婦像及び碑を貴市のおおの意思として市有地に設置されました。

本件については、私もしくは前大阪市長から、サンフランシスコ市議会ないしはエドウィン・M・リー元サンフランシスコ市長に対し、2015年8月以降、計8回にわたり、姉妹都市大阪市として、像と碑の設置がもたらす影響に懸念を表明するほか、思慮深い対応、慰安婦像及び碑の設置や公有地への移管をしないことを要請してまいりました。

こうした一連の働きかけにもかかわらず、サンフランシスコ市が自らの意思で慰安婦像及び碑の受け入れられたことは両市の姉妹都市関係にネガティブな影響を及ぼすものにほかなりません。この間、日本国内においては、貴市の慰安婦像及び碑の設置に遺憾の念を示す意見が大阪市民等より多数本市に寄せられているところでもあります。

以上が、私が姉妹都市提携関係解消もやむなしと考える理由とこれまでの経緯です。

一方でもし、今回設置された慰安婦像と碑をサンフランシスコ市の公共物でなくすることにより、大阪市と貴市の市民がこれまでどおり友好的に交流できる環境を整えるご意向を貴殿がお持ちであるならば、大阪市として貴市との姉妹都市の関係をこのまま継続することに、私も異論のないところです。

これにつきまして、今回新たに市長に就任された貴殿のお考えや意向を、ぜひお聞かせください。私は現在も、両市間の草の根交流の基盤となる姉妹都市関係の継続を心から望んでおりますので、貴殿のお考え、ご意向によっては、姉妹都市関係の解消を回避できるものと期待しているところです。一方で貴殿のお考えやご意向がリー元市長時代と変わらないようであれば、本市としては貴市との姉妹都市関係を解消せざるをえません。

ご就任早々のお忙しい時期に恐れ入りますが、9月末までをめぐりにお聞かせいただけると幸甚です。

なお、この書簡については、サンフランシスコ及び大阪の市民の皆様を含めて広く知っていただきたいとの趣旨で、公開書簡とさせていただきますのでご理解ください。

大 阪 市 長

吉 村 洋 文